豊かな人間形成を目指して

学校教育

明日を担う児童生徒の健全育成

人間性豊かな児童生徒の育成と、創造的な教育経営の推進を柱に、次のような重点施策を実施している。

1．郷土教育の推進

郷土の自然と文化に親しみ、郷土に対する理解と認識を深め郷土愛を育てる。

そのため、郷土学習巡検会の開催とともに研究委嘱校・実践校を指定するほか、児童生徒用副読本作成の事業にも力を入れている。

2．勤労教育の推進

稲作、いも類、野菜、果樹、あるいは茶、シイタケ栽培や花壇づくりなど、地域の実情に応じた勤労体験学習が実施されている。

現在、約84%にあたる78校が農作業を取り入れており、汗を流して働く喜びや生産の喜びを体験し、心豊かな人間形成に資している。

3．愛鳥教育の推進

シジュウカラが市鳥として制定された。

森の都にふさわしい野鳥と自然を生かし、豊かな心情を育てる教育活動を進めている。

研究委嘱校・実践校の指定のほか、児童生徒の野鳥観察会や指導者養成講習会を実施し、教育の向上普及に努めている。

4．国際理解の推進

進展する国際社会に対応するために、他国の文化・伝統を尊重し、主体的に行動できる児童生徒の育成を目指している。

国際理解の実践校を指定し、来熊外国人との交歓、児童生徒の作品交換、文通などによる交流をしている。

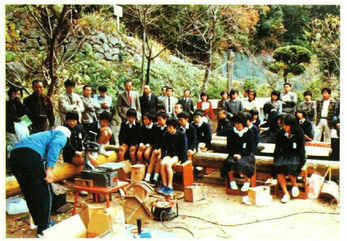
5．体力づくりの推進

体力づくりについては、心身ともに強健な児童生徒の育成に努め、特に、素足の励行や部活動の推進に力を入れている。

さらに、基礎体力づくりを核とした研究推進校を指定し、実践結果を全市に拡大することに努めている。

体力づくり（城東小）

国際理解（田迎南小）



愛鳥教育（松尾西小）

勤労教育（日吉小）

学校施設

良好な学習環境の形成

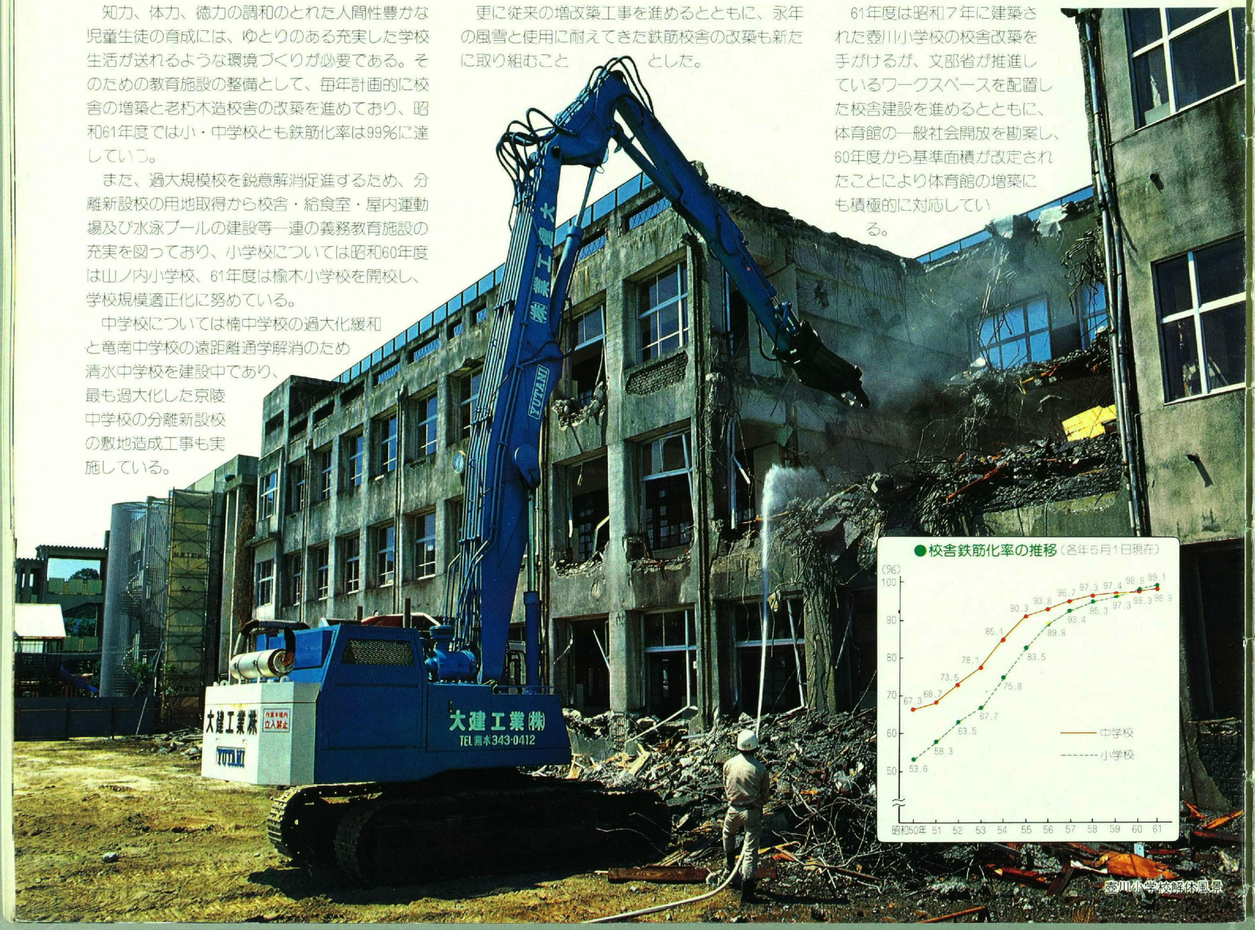
知力、体力、徳力の調和のとれた人間性豊かな児童生徒の育成には、ゆとりのある充実した学校生活が送れるような環境づくりが必要である。そのための教育施設の整備として、毎年計画的に校舎の増築と老朽木造校舎の改築を進めており、昭和61年度では小・中学校とも鉄筋化率は99%に達している。

また、過大規模校を鋭意解消促進するため、分離新設校の用地取得から校舎・給食室・屋内運動場及び水泳プールの建設等一連の義務教育施設の充実を図っており、小学校については昭和60年度は山ノ内小学校、61年度は楡木小学校を開校し、学校規模適正化に努めている。

中学校については楠中学校の過大化緩和と竜南中学校の遠距離通学解消のため清水中学校を建設中であり、最も過大化した京陵中学校の分離新設校の敷地造成工事も実施している。

更に従来の増改築工事を進めるとともに、永年の風雪と使用に耐えてきた鉄筋校舎の改築も新たに取り組むこと　　とした。

61年度は昭和7年に建築された壺川小学校の校舎改築を手がけるが、文部省が推進しているワークスペースを配置した校舎建設を進めるとともに、体育館の一般社会開放を勘案し、60年度から基準面積が改定されたことにより体育館の増築にも積極的に対応してい　　る。



壺川小学校解体風景

●校舎鉄筋化率の推移（各年5月1日現在）

社会教育

生涯学習の機運に応えて

変ぼう著しい今日の社会に適応し、生涯を通じて自己の資質能力を伸ばす機会を持ち、心身ともに健全で充実した生活を送りたいという市民の要望は、次第に高まっている。

特に近年、市民の学習意欲は高度化、多様化し、これに対応した生涯にわたる学習機会の整備を図ることは緊急の課題となっている。

本市では、その基本構想において心身ともに健康な市民の育成と人間性豊かな風格ある教育文化都市の建設をめざし、その施策を推進しているところである。

その一つとして、「心身の健康を求めて自ら学ぶ市民の学習活動の助成」をめざし、生涯教育の機会と内容の充実をはかるため、市民のコミュニティ醸成の拠点として各地域に市民センターを建設（中央公民館、西部、南部、東部、龍田、託麻、清水、幸田、秋津の9館）し、市民の学習欲求に応じて教育、学術および文化に関する各種の講座学級を開設しており、その数626、受講者数2万5千余名を数えている。

そのほか、明るくうるおいのある町づくりのため、市民の協力を得てボランティア養成の講座も実施している。また、南部公民館は移転新築のため昭和61年8月着工、昭和62年度開館を予定して建設を進めている。

地域公民館研究大会

博物館のり物展

図書館（大江6丁目）は、1階は一般貸出し、閲覧、児童、お話コーナー、参考資料室、身体障害者福祉室、2階は集会室、ホール、視聴覚ライブラリー、ビデオコーナー、リスニングルームなどがあり近代的機器を備え、研修、貸出しなど多数の市民の利用に供している。

博物館は古京町に位置し、自然人文、理工科学関係資料の収集展示のほか、「星をみる会」等各種の教室を開設し、併設のプラネタリユウムは西日本一の規模を誇り一般投影のほか、小中学生のための学習投影も行っている。特別展（年1回の企画展、61年はのり物展）を開催するなど、社会教育のみならず学校教育の場を提供するなど総合博物館としての機能を備えている。

次代を背負う青少年の育成は、家庭、学校、地域社会が一体となって取り組むことが大切であり、青少年の教育、対策を二本の柱として市民の理解と協力を得て種々の施策を講じている。

青少年教育においては、青少年団体の育成をはじめ、子どもの自主性・自発性を身につけさせるため、教育キャンプの実施、子ども会リーダーの養成にも力を入れている。待望の青年会館も本年7月落成し、青年活動の拠点として青年の自発的自己研さんを図るため、青年教室の開催や青年リーダー養成にも力を入れている。

青少年対策においては、留守家庭児童の保護育成を図るため児童育成クラブの開設（22か所）をはじめ、青少年補導センターの充実、地域ぐるみによる青少年健全育成のための校区青少年健全育成協議会との連携を図る一方、広域的対応として、熊本都市圏青少年健全育成連絡会を開催し、また、家庭啓発事業「ミニ集会」の開催など実施している。

いま、家庭での教育力の回復が望まれるとき、家庭教育の活性化をめざした家庭教育学級を市立小学校63校と中学校2校で開設し、その振興を図っている。

また、「熊本市少年海洋体験の船」事業を実施したり、高校生の中国桂林市訪問など国際交流の推進も図っている。

その二として、「豊かなふるさとづくりをめざして、市民が連帯創造する地域活動の推進」をあげ、市立公民館の学習による地域連帯感の浸透を図るとともに、地域公民館（249館）の拡充整備および活動助成、地域各種団体と連携して地域リーダーの養成に力を入れている。

特に、本年は社会教育関係団体代表者会を開くなど、相互協力により真に明るく住みよい街づくりの実現につとめている。

文化

地域に根ざした個性ある市民文化の創造

本市には熊本城、水前寺成趣園をはじめ、永い歴史に培われた多くの文化遺産が大切に保存され、訪れる人々に深い感銘を与えている。

また、横井小楠、徳富蘇峰、蓬花など郷土ゆかりの先哲の顕彰と、明治の文豪・夏目漱石、小泉八雲の文学遺跡の保存に努めている。

近年においては、市民会館、博物館、美術館、県立劇場、図書館、近代文学館、各地の市民センターなど、文化施設の整備が急テンポで進んでおり、全国規模の芸術祭が開催され、一流の芸術文化に接する機会も増え、地域での各種文化活動も盛んになっている。

さらに最近は、市庁舎や図書館、市民センターなど公共施設の建設に際し、壁画その他の美術作品が配置され、特に61年7月に開館した熊本市総合体育館・青年会館には、郷土の誇りである名誉市民・竪山南風画伯の「鳴龍」、文化勲章受彰者・牛島憲之画伯の「沼」などの秀でた作品を取り入れ、文化・芸術の香り高い施設となっている。

また、民間建築物についても、優秀建築物の表彰制度を設け、まちづくりにおける文化度の向上には配慮を加え、緑と水と文化が調和した情緒豊かな森の都を目指す熊本市アメニティタウン計画を策定するなど、快適な都市環境づくりと文化的なまちづくりを目指している。

このように本市では、先人が残した優れた歴史と伝統を継承し、文化財の尊重と受護精神を育成しつつ、生活文化から地域に根ざした個性ある市民文化へ、さらにその質を高め厚味を加えている。

青年会館鳴龍

火の国まつり

夏の風物誌、市民総参加の火の国まつり

火の国くまもとの夏をひときわ熱く燃やす「火の国まつり」。昭和53年に“市民総参加”のまつりとして始まり、毎年くまもとの街は8月11日から13日の3日間熱気と興奮に包まれる。

火の国まつりのシンボルである“希望の火”を若人の手でリレーする「希望の火リレー」、子供達の手作りみこしによる「みこしだワッショイ」、熊本城二の丸広場での「オープニングセレモニー」、華麗なバトンと勇壮なブラスバンドの「音楽パレード」といった多彩な催しが繰り広げられるが、まつりのハイライトは12日夜の「おてもやん総おどり」。おなじみおてもやんのメロディーと激しいサンバのリズムが街中に響き渡り、2万人の踊り手の波は夜空をふるわせまつりはクライマックスを迎える。飛び込みの連で踊る観光客や外国人の姿も見られ、文字通り熱気が街を埋めつくす光景は圧巻そのものである。

フィナーレを飾るのは13日、下江津湖での「大花火大会」。3,000発の打ち上げ花火と仕掛け花火の光と音の饗宴でまつりの幕を閉じる。

このほか、期間中はいろいろな協賛行事も市内各所で行われ、3日間の人出は県内外からの観光客も含め約90万人、今やくまもとの夏を代表するまつりとして多くの人々に親しまれている。

カラーガード隊

希望の火リレー

オートバイパレード

総おどり

総おどり

国際交流

広がる交流の輪

本市の国際交流は、昭和54年10月の中国桂林市との友好都市締結を契機として年々活発になっている。

両市長の相互訪問をはじめ、桂林市からの農業、都市建設考察組、歌舞団、留学生、体育代表団、経済考察団、青年代表団、人民代表大会代表団が来熊、本市からは市民友好の翼、高校生、公害問題指導者、千原桜贈呈団、経済交流団、留学生、熊本交響楽団訪中団、産業展代表団、青年代表団などが訪桂、教育・文化・スポーツ・経済・衛生などの各分野にわたる幅広い友好交流が進展し、両市の友好協力関係は、非常に緊密なものとなってきている。

また10数年来に亘り友情を育んできた西独ハイデルベルク市との交流も活発になってきており、

ハイデルベルク市

桂林市

両市長の相互訪問、「火の国まつり」への管楽五重奏団の来熊、熊本市民手づくりのミュージカル「アルトハイデルベルク」へのツンデル市長の再来熊など交流の輪は広がっている。

特に「クマモトグリーンピック'86」の開催された昭和61年夏には、桂林市、ハイデルベルク市から代表団が来熊、催しに彩りを添えた。

本市は、広く外国都市との友好交流を進め、国際社会に即応した都市づくりを目指している。

社会体育

スポーツ、レクリエーションを通じた健康の増進

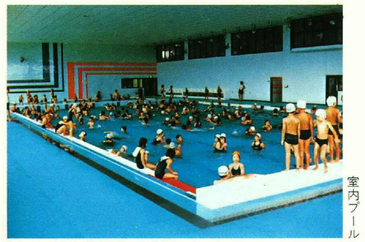
体育・スポーツが、人間の精神力・身体的健康の維持・増進に役立ち、さらに、自分をとりまく人間関係を良好に保つ絶好の手段として大きく認識され、また地域社会における住民の主体的人間関係の向上と発展に大きな役割を担っている。

現今の複雑な社会機構の中で自己の健康保持と体力増強、また疎外されつつある人間性回復に体育・スポーツを通して実践する人々が増加し、その内容も多様化している。

本市では、これら市民のニーズに対応し、昭和54年10月「健康都市宣言」を行い、以来市と市民が一体となって市民一人ひとりの心身と健康と明るく豊かな市民生活の営める街づくりを市政の一大目標とし、あらゆる分野から施策を結集、その実現を目指し、総合的な施策の推進に努めている。

スポーツ施設の整備拡充

① 熊本市総合体育館・青年会館が昭和61年7月開館。
② 川尻・日吉・力合・城南地区コミュニティスポーツ施設の造成工事（施設内排水路及び外周道路基盤整備）。
③ 田迎・画図・御幸地区コミュニティスポーツ施設造成工事他（プール及び体育館建設工事着工）。
④ 山ノ内小学校の運動場に夜間照明施設の整備、楡木小学校体育館の夜間開放。
⑤ 新たな地区にコミュニティスポーツ施設建設用地の確保。
⑥ 既設スポーツ施設の環境整備。



室内プール

スポーツ活動の振興

① 全市的スポーツ行事や地域におけるスポーツ行事への参加推進。
② スポーツ指導者の養成および組織体制の整備。
③ ファミリースポーツの普及振興。
④ スポーツグループの育成。

総合体育館・青年会館